

# ～認知症になっても住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるように～ 認知症地域支援推進員を紹介します

## ▶「認知症地域支援推進員」ってなに？◀

認知症地域支援推進員は、地域に出向いて「認知症への理解を進めるための普及・啓発を行う推進役」をしており、市ではささえあいセンター（地域包括支援センター）に1人配置しています。

住み慣れた地域で生活を継続するには、「認知症の容態に応じ、必要な医療・介護および生活支援を行うサービス機関が互いに深くつながり連携できるネットワークを形成すること」、「認知症の方への支援体制を構築すること」が必要となりますので、その推進役として日々活動しています。

## ▶どんな活動をしているの？◀

### ①認知症サポーター養成講座の実施

地域全体で認知症の方々を支えるためには「認知症」が身近な病気であることを理解してもらうことが必要です。そのため、市内の企業や団体などを対象に「認知症サポーター養成講座」を市とささえあいセンターが共同で実施しています。認知症サポーターとは、認知症について正しい知識を持ち、認知症の方やその家族を見守る応援者です。申し込みは随時受け付けていますので、下記までご連絡ください。

### ②認知症カフェの開催

認知症を支える家族の会（ひだまりの会）と市、ささえあいセンターが共同で、カフェくるみで「ひだまりカフェ」を開催しています。「ひだまりカフェ」は「介護者同士で認知症介護を分かち合う場」、「認知症について理解を深める場」となるように実施しています。また、町内会や医療介護従事者を対象とした「認知症カフェ」を実施し、地域における認知症への理解や医療介護従事者の認知症ケア向上に努めています。ひだまりカフェの日程については、今後の広報などをご確認ください。



ひだまりカフェの様子

### ③認知症ケアパスの作成

「認知症ケアパス」とは、認知症の方やその家族が、できる限り住み慣れた砂川で安心して暮らし続けられるように、認知症の状態に応じた支援や医療・介護サービスを紹介したガイドブックのことです。市では、認知症ケアパスとして「認知症ささえあい手帳」を作成し、全戸配布をしています。この手帳は自助機能（自分のことは自分で行うこと）を高められるようにも整理していますので、ぜひご利用ください。



## ▶認知症初期集中支援チーム◀

認知症については特に初期段階での対応が重要であることから、平成26年9月より、ささえあいセンターと市立病院認知症疾患医療センター等との連携を基礎とした「砂川市認知症初期集中支援チーム」が設置されました。認知症を初期の段階で、適切な医療や介護につなげ、重症化を予防するとともに、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるようにチームが一丸となって支援しますので、ぜひご相談ください。

## ◆認知症について理解を深めよう◆



認知症は加齢に伴う病気の一つで、誰もが発症する可能性のある脳の病気です。認知症は症状が軽いうちに適切な治療を受けることで進行を遅らせることができます。また、家族や友人のサポートを受けることができれば、住み慣れた地域で暮らし続けることが可能です。認知症の方を支えるために、身近な病気である認知症について、一緒に認知症サポーター養成講座で勉強して、理解を深めてみませんか？

ささえあいセンター 認知症地域支援推進員 藤井 直子

【お問い合わせ】 ●ささえあいセンター（砂川市地域包括支援センター）☎3077  
●介護福祉課高齢者支援係☎2121